

緑と愛と 丘のある まち

豊かな自然の恵みと、長きにわたって
積み上げられてきた伝統と文化、
そしてそこに住む人々の包み込むような温かさ。
川西町は、たくさんの魅力であふれています。

この町の一人ひとりがいつまでも笑顔で暮らし、
次世代に町の魅力を引き継いでいきたい――。
その実現に向けて、川西町では協働のまちづくりを掲げ、
誰もが安心して誇りを持って住み続けていけるような
まちづくりを目指しています。

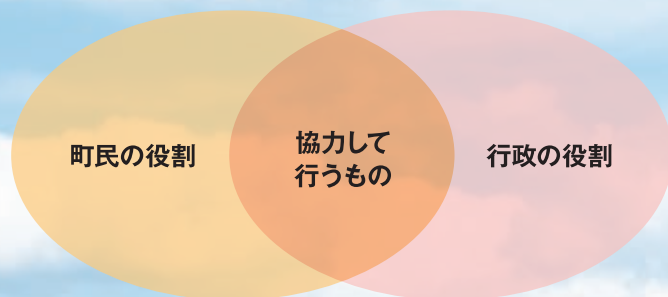
「緑と愛と丘のあるまち」の実現へ

川西町では、町民と行政が一体となって協働のまちづくりに取り組んでいます。
平成16年に「川西町まちづくり基本条例」を施行し、
今では住民一人ひとりに協働の意識が根付き始めています。



地域住民がまちづくりに積極的に参加。地域の課題や解決策について話し合っている。

協働のまちづくり



こへ行けば、何かに出会える。それは、小さな発見だったり、大きな感動だったり、新しい自分だったり…。平成六年にオープンして以来、フレンドリープラザは、訪れる人々にそんな「であい」を与え続けてきました。まちの文化活動の拠点であるフレンドリープラザは、図書館、ホール、交流スペースが一体となった多目的施設です。

図書館は、川西町出身の井上ひさしさんから寄贈を受けた蔵書など約二十万点が収められている。選筆堂文庫と町立図書館で構成。平成二十二年一月には、井上ひさしさんの功績を紹介する井上ひさし展示室が図書館内にオープンし、柱を使った本棚「本の樹」には、全国のファンから井上作品が集まりました。

ホールは、本格的な劇場として利用されており、舞台と観客が一体とされるような演劇の視点でつくられているため、こまつ座をはじめ様々な事業が一年を通して盛んに行われています。

交流スペースには、小ホールのない方ができるロビーに作品の展示ができるギャラリーがあり、フレンドリープラザに集う人々の交流・発表の場として親しまれています。

子どもから大人まで、町内外から多くの人が訪れるフレンドリープラザは、これからも様々な「であい」を生み出し続けていくことでしょう。



毎年秋に町民の文化の祭典として開催される川西町芸術文化祭。



選筆堂文庫井上ひさし展示室と本の樹。



こまつ座の公演「円生と志ん生」 撮影/谷古宇正彦氏

川西町が生んだ作家 井上ひさしさん

井上さんは川西町(旧小松町)で生まれ、多感な幼少時代を川西町で過ごしました。昭和四十七年、手鎖心中で直木賞を受賞し、以来、精力的な執筆活動を続けました。戯曲、小説、評論など様々な分野で活躍し、全国に多くのファンを生み出しました。

また、劇団「こまつ座」を旗揚げし、多くの戯曲を書き下ろして上演しました。フレンドリープラザでもこまつ座の公演が定期的に行われています。

井上さんの作品には、明るい笑いの中に風刺が込められた作品がたくさん存在し、多くの人々に愛されています。その作風は生まれ育った川西の自然と人風土が深い影響を与えているのではないのでしょうか。井上さんから寄贈を受けた蔵書をもとに、「選筆堂文庫」が開館しました。付箋が貼られたままの本、生原稿など作家の息づかいをそのまま感じ取ることができる場所として、全国から多くの人が訪れます。また、選筆堂の開館と同時に生活者大学校

撮影/佐々木隆二氏

の開校を提唱し、校長として様々なテーマで講演をし、川西町発信の文化創造にも貢献しました。晩年まで精力的に活動を続けましたが、平成二十二年四月、永眠。しかし、これからも井上さんの作品と精神は多くの人の心に残り続けることでしょう。

井上さん直筆による選筆堂文庫蔵書目録。選筆堂開館の際に寄せられたもの。選筆堂の蔵書の中には付箋をつけたままにしてあるものもあり、井上さんの息づかいを感じることができる。

発行/新潮社



様々な活用されているフレンドリープラザ。野外にも舞台があり、置賜地方をリードしていく文化施設である。

のあいで

丘

訪れる人々に様々な「であい」を与え続けるフレンドリープラザ。それは小さな発見だったり、大きな感動だったり、新しい自分だったり…。図書館、ホール、交流スペースからなるフレンドリープラザは、多様な活用のしかたを想像させ、これからも多くの「であい」を生み出し続けていくことでしょう。

色彩豊かなダリヤ園は、
町民のこころのよりどころ。
ダリヤのように生き生きとした
太陽の輝きは川西の象徴。



毎年夏から秋にかけて咲き誇るダリヤを見るために、多くの人を訪れる。



置賜一の規模を誇るハーブガーデン。



温泉施設と宿泊施設をもつ浴浴センターまどか。

六

五〇種、約十萬本。川西ダリヤ園では、咲き誇る花が訪れる人々を魅了しています。
もともとダリヤ愛好家が多かった川西町では、昭和二十九年に小松花の会が発足し、一般家庭にも普及するようになり、その後昭和三十一年に日本初の観光ダリヤ園として川西ダリヤ園が開園し、今では約四ヘクタールの敷地いっぱい花を咲かせています。また、圧倒的な存在感を持つダリヤは、結婚式やイベント会場を彩る花としても人気を集めており、最近では観賞用のほかに、焼酎や漬物などにも使われ評判を呼んでいます。
ダリヤ園一帯は「ふれあいの丘」

と呼ばれ、人と人、人と自然がふれあえる場所になっています。そのコンセプトに沿った施設がダリヤ園を取り囲み、ひとつの丘を形づくっています。
温泉施設と宿泊施設をもつ浴浴センターまどかでは、ゆったりと心地よい時間を過ごすことができ、会議室やレストランは人々の交流の場にもなっています。ダリヤ園の隣にある置賜公園では、季節ごとの花が散歩する人々の目を惹きつけます。特に公園内のハーブガーデンは置賜地域最大級で、初夏には人々にさわやかなひとときを与えています。
全国から訪れる人々の観光名所として、町民憩いの場として、ふれあいの丘は愛され続けています。



小松花の会立ち上げ当時のメンバー。(昭和30年)



ダリヤ園開園式の来賓。(昭和35年9月21日)

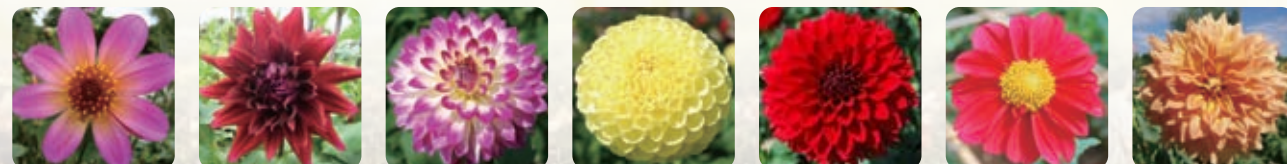
特集2 ◎川西町のまちづくり

ふれあいの丘

[ダリヤ園]

昭和35年、日本初の観光ダリヤ園として開園した川西ダリヤ園。今では4ヘクタールの敷地に650種、約10万本ものダリヤが咲き誇ります。ダリヤ園一帯には温泉施設や公園などもあり、人と人、人と自然がふれあえる場所として賑わっています。

＊川西町で誕生したダリヤの新品種＊



ほのか 暁星 はにかみ きらきらぼし 紅の夢 レッドクローバー ひなたぼっこ

人・もの・文化、感動を呼び込む 魅力あるまちづくり



アルカディアの里「東京川西会」

東京川西会は、関東地方在住の川西町出身者の親交と融和、情報交換、そして川西町の活性化などを目的として、昭和62年に故黒澤植郎先生を初代会長に設立されました。毎年いも煮会や懇親会などのイベントが開催されています。

全国川西会議

全国川西会議は、交流とお互いの発展を目指して「川西」と名の付く全国の1市3町で発足した。阪神大震災で被災した兵庫県川西市に新潟県川西町が見舞金を送ったことがきっかけとなり両市町の交流が始まり、平成9年、山形県川西町、奈良県川西町を含めた1市3町で同会議が設立されました。

平成10年には「災害時の相互支援協定」を結び、災害時の食料や水などの生活必需品の提供や被災者の救援に必要な資材の提供などについて協力・支援することとしています。

※新潟県川西町は、平成17年4月1日に合併し、十日町市となりましたが、川西地域（旧川西町）は、そのまま全国川西会議に加盟しています。



芸術村あすなろとの交流

神奈川県川崎市の音楽集団「芸術村あすなろ」が、毎年玉庭地区で自然学習や音楽練習などの夏期合宿を行っています。そのつながりから、川崎市のイベントで物産販売を行うなど、交流から新たな展開が生まれています。



東沢やんちゃ留学

平成3年度から、川西町東沢地区と東京都町田市とのあいだで「東沢やんちゃ留学」と称する山村留学が行われています。川西町と町田市との交流は、町田市が「まちだダリア園」を建設する際に川西町からダリアの球根を贈ったことが始まりで、以来、東沢地区と町田市のあいだでは、独自の交流活動が続いています。

交流

交流は地域の活性化だけでなく、人々の心の活性化も育みます。これまで行ってきた事業に加え、町をあげての総合的な交流事業で、外の風を感じながら川西町の魅力をさらに発信します。



Cultural exchange

交 流はまちづくりの賑わいを創出し、地域経済の活性化だけでなく人々の心の活性化を育みます。そしてそれは、新たな活動に向かうための活力にもなります。

本町では、平成二十三年度から「交流基盤確立プロジェクト」を立ち上

げ、これまで以上に交流事業に力を注いでいます。これまでも、フレンドリープラザやダリア園、下小松古墳群など、町内にある地域資源を活用した交流事業や地域間交流に取り組んできました。これらに加え、さらなる交流人口の拡大や地域の活性化を目指して、「やまがた里の暮らし大学」を開校し、町をあげた総合的な交流事業に取り組んでいます。

また、本町では、全国レベルでの交流も行われており、町の活性化につながっています。平成三年から始まった、東京都町田市と川西町東沢地区との交流「東沢やんちゃ留学」は、平成二十三年で二十周年を迎え、その間、短期留学生は六一八名、長期留学生は四一名を数えました。交流を通して特産品の販売拡大につながるなど新たな展開も生まれ、町内の皆が刺激を受ける交流事業となっています。

「川西」と名の付く全国一市三町で構成される「全国川西会議」も、お互いの発展を目指すための大事な交流の場となっています。そのほか関東在住の本町出身者で構成される「東京川西会」の活動や、神奈川県川崎市「芸術村あすなろ」との交流も、町の風を感じ、本町の魅力を発信する上で欠かせないものです。

町内外における交流は確実に広がっています。今後も町と心の活性化を目指した交流を進めていきます。

産業



町が持つ資源、人材・技術・自然環境を最大限に活用するため、町をあげて「6次産業化推進プロジェクト」を開始。産業を取り巻く厳しい状況を打破し、川西町ならではの産業を持続・発展させていきます。

Industry

資源を活用し満足できる誇りあるまちづくり

本

町の主産業は農業であり、「つや姫」はえぬき」といった米を中心とした作物づくりを行ってきました。また、米沢牛の主産地として黒毛和種の肥育も盛んに行われています。

しかし近年では、農業人口の減少や高齢化、後継者不足、米価の低迷など厳しい状況が続き、どのように農業を活性化させるかが、差し迫った課題となっています。商工業でも、デフレや消費の落ち込みなどで、製出品出荷額や販売額が伸び悩んでいます。

こうした厳しい状況を打開するために、本町では平成二十三年度から「6次産業化推進プロジェクト」を開始しました。農作物を生産するだけでなく、加工や販売も併せて行い、本町の主産業である農業の持続・発展を目指しています。

具体的には、農業者が自ら農作物を直売・加工販売すること、商工業者と連携して商品開発すること、6次

産業化に向けた人材育成を行うことが挙げられます。また、この6次産業化の取り組みをさらに発展させて、川西ブランドの確立を目指します。

産業の発展は町全体の活性化につながります。人技・自然という、町が持っている資源を最大限に活かし、豊かで活気にあふれた誇りあるまちづくりを進めます。



コンビニと提携した直売所



朝食が食べられる朝市「こまつ市」。新鮮な野菜やお菓子が販売され、多くの人で賑わう。

町内には高い技術をもつ企業もあり、質の高い製品が生み出される。



置賜農業高等学校・演劇部による食育子どもミュージカル「どんでん森は、どっきどき」

次代を担い、地域で積極的に活躍できる人づくり

本

町では、子どもたちが学びを通して郷土愛を育み、生きていくのに必要な社会力を育てられるように、様々な活動を支援しています。

各小学校では、県指定天然記念物であるチョウセンアカシジミの保護観察や、地域の人による授業、児童の手による米・野菜づくりなど、地域に根ざした学習が行われています。

また、平成二十三年四月、町内の三つの中学校が統合し、川西中学校が新たにスタートしました。新しい学校は自校給食であり、地産地消を通じた食の教育にもつながっています。新しい環境の中で、「自立をめざし、たくましく生きぬく生徒の育成」のため、教育環境を充実させていきます。

の演劇を行い、地域に楽しみを与えています。その活動が認められて「二〇一一年やまがた公益大賞」を受賞しました。そのほか、全国の高校生が観光プランを競い合う「観光甲子園」で最高賞を受賞するなど、全国レベルでの活躍が目立っています。

次代を担う人材を育てることは、将来の町の活性化にもつながります。これからも、豊かな自然と人々のふれあいの中で、地域で積極的に活躍できる人づくりに努めます。



Education

子どもたちが主体的に学び、豊かな心と健やかな身体を育み、そして、学びを通して郷土愛や社会力を身につけるため、学校を支援します。若い世代の活躍は、地域全体の活力につながっています。



教育

子育て

地域で育てあい安心して豊かに暮らせるまちづくり

子

子どもたちが健やかにのびのび育つためには、子育てを地域全体で支援していることが大切であり、子育てをしていく家庭が暮らしやすい環境にしていく必要があります。

本町では、多様化する子育てニーズに応えるために、様々なサービスを充実させています。認可外保育施設への運営支援や保育料の補助、私立幼稚園通園料の補助を行うなど、子育てしやすい環境づくりを進めています。

また、子育て支援センターを開設し、相談体制・情報提供を充実させるとともに、親同士・子ども同士が交流できるような環境づくりを目指しています。そのほか、子育てサークルや託児サークルの活動支援、放課後児童クラブ運営団体への支援・利用料金の補助などを行っており、地域の人同士がふれあえる場をつくりだすように努めています。



さらに、子育て支援をより充実させるため、平成二十三年六月より、中学三年生までの医療費無料化をスタートしました。それまでの制度を大幅に広げたもので、本町で子育てをする家庭へのバックアップになることが期待されています。

あたたかいふれあいの中で、地域全体で子どもを育て、安心して生み育てられるような環境づくりを進め、豊かに暮らせるまちを目指します。

放課後児童クラブなどへの支援により、地域で子育てする環境づくりに努めている。



Child-rearing

多様化する子育てニーズに応えるために、各種サービスを充実。中学三年生までの医療費無料化など、多方面から子育て家庭へのバックアップを行っています。地域全体で子育てを支援し、子どもたちが健やかにのびのび育つ環境をつくりだします。



公立置賜総合病院は、優秀な医療スタッフによる高度な医療提供の場として、地域の医療を支えている。

みんなで支えあい健康で活躍できるまちづくり

町

民が生涯にわたって健康で安心して暮らせるように、医療・福祉・介護体制を充実させ、それぞれが連携を図っています。

高齢化が進む置賜地域の医療に対応するために、平成十二年、川西町に公立置賜総合病院が開院しました。同病院は、長井市・南陽市・川西町・飯豊町の二市二町と山形県を構成団体とする中核病院です。「心かよう信頼と安心の病院」という理念のもとで、優秀な医療スタッフが、高度な医療を提供し、置賜地域の医療を日々支えています。

また、高齢者が健康で生き生きと暮らせるように、健康診断や多様な介護サービスを行っているほか、地域包括支援センターによる介護予防事業にも力を入れています。

川西町には、障がい者用グループホームが県内で最も多い九施設あります。地域全体で支え合い、健常者も



障がい者も共生できるまちづくりを進めています。そして、乳幼児から高齢者まで、生涯をずっと元気に過ごせるように、町民の健康づくりを進めています。自然環境を活かしたレクリエーションやウォーキングといった様々なイベントの実施、健康教室、年齢層に合わせた心のケアなどを通して、全ての町民が健やかに過ごせるまちの実現を目指しています。

健康づくりから障がい者・高齢者への支援、医療体制の充実など、町民の安心と健康のために、また、すべての町民が、生涯を通して健やかに充実した暮らしを送れるよう、医療・福祉・介護体制の充実を図ります。



医療・福祉

Medical treatment & Welfare

スポーツ

Sports



スポーツを通して健康づくりや交流ができるよう努めます。町民一人ひとりが生涯にわたってスポーツを楽しむ、元気なまちの実現を目指して、「ホッケーのまち川西」に代表されるように、ホッケーの普及にも引き続き取り組んでいきます。

スポーツを通じた活力あるまちづくり

明

るく快適な生活を送り、交流を深めるためには、スポーツ・レクリエーションの普及は重要です。

川西町では、町民一人一スポーツを推奨し、気軽に健康づくりやスポーツ・レクリエーションに親しめるよう努めています。

特に、平成四年に山形県で開催された「べにばな国体」において、川西町がホッケー競技全種目の会場となったことをきっかけに、「ホッケーのまち川西」を提唱してきました。その結果、国体以降も町内・県レベルの大会はもろろん、全日本中学生ホッケー選手権大会や全日本社会人選手権大会など全国規模の大会を数多く開催し、ホッケーの普及と技術力の向上に努めています。

また、毎年一月一日に開催される元旦マラソンには、町内外から多くの人が参加し、新春の朝日を浴びながら清々しい汗を流しています。

町内を舞台にしたひめさゆりウォークも、川西町の花とウォーキングを同時に楽しめると、参加者から好評を得ています。

ダリヤ園周辺の内山沢遊歩道では、六月と九月にマウンテンバイク大会が開催され、町内外から多くの愛好家が訪れるなど、スポーツを通じた交流も盛んです。

これからも、誰もが生涯にわたってスポーツ・レクリエーションに親しめるまちを目指していきます。



川西町では、多くの人がホッケーに親しんでいる。



主な川西町の指定・登録文化財



受け継がれる伝統・資源を活かしたまちづくり

本

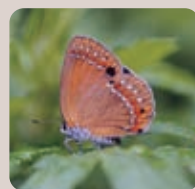
町には、次の時代に受け継いでいくべき貴重な文化財が町内全域に数多くあります。

東日本有数の古墳群である下小松古墳群(国指定史跡)や、前方後方墳としては東北最大級の天神森古墳(県指定史跡)は、置賜地域の歴史を知るための貴重な財産です。

また、江戸期の面影を残す樽平酒造主屋と蔵群(国登録文化財)、牛谷家の門(町指定文化財)といった文化財も、町のあゆみを知る手がかりとなります。

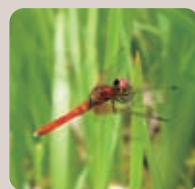
歴史的財産のほか、貴重な動植物もたくさん存在します。チョウセンアカシジミやハッチョウトンボはこの地域ならではのものです。ツクシガヤも東北地方では川西町でのみ確認されている珍しい植物です。

これらの貴重な財産を守り、次世代に受け継ぎ、それらを活かしたまちづくりをします。



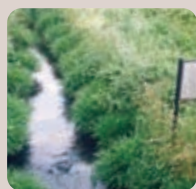
チョウセンアカシジミ

県指定天然記念物。地区の住民により保護活動が行われている。



ハッチョウトンボ

下小松古墳群の丘陵地帯に生息する希少な昆虫。



ツクシガヤ

県指定天然記念物。黒川流域に自生する。東北地方では川西町でのみ確認されている。



草木塔

草木への感謝を表現するために建てられている石碑。町内には22基あり、この地域の人々ならではの自然観が感じ取れる。

Cultural assets

町が持つ文化財は、受け継がれてきた町の個性です。町内全域に存在する様々な文化財を保護し、活用し、継承します。また、その価値を見直して、さらなる魅力を活かしたまちづくりを展開します。



文化財

●川西町の位置

川西町は、日本の東北地方、山形県南部の置賜地方のほぼ中心に位置し、リスボン、ソウル、アテネ、ワシントンと同じ北緯38度に位置している町です。町内に北緯38度と東経140度の交差点があります。



●川西町のシンボルマーク



町章は「川西」を図案化したもので、円満融和に結びつく、全町民の心を表し、円化した「西」を中心に「川」を組み合わせたものです。町の花はダリヤ、木は松となっています。

●川西町町民憲章

- 一、自然と生活の調和をはかり美しい町をつくりましょう
- 一、働きと工夫によって豊かな町をつくりましょう
- 一、あたたかい心で助けあい楽しい町をつくりましょう
- 一、きまりを守り、健康で明るい町をつくりましょう
- 一、教養を高め、ゆとりある文化の町をつくりましょう

輝く未来に向けてその歩みを進める川西町。
協働のまちづくりを基本理念とした
まちと人が奏でるアンサンブルは、
川西町に暮らす人々に響きわたり共鳴し、
新たなまちづくりの礎となっていく。
人がかがやきダリヤと文化が咲き誇るまちへ。
そして緑と愛と丘のあるまちへと――。